

日本人の



れもの

50

第2部 忘筆 森清範 清水寺貫主

多様性の意味

金子みすずさんの詩に「みんなちがってみんないい」という一節がある。多様性の大切さをこれほど端的に表現したことはない。この世の中にあるものは、それぞれちがっていて、それぞれの役割をもって存在している、ということであろう。多様性に対立するのは、一様性あるいは画一性である。現在、世界経済を中心に進行しているグローバルゼーションは、世界をある意味で画一的にしようとする動きである。そのような社会では支配とコントロールのために、いくつかの限られた指標による序列化を伴っている。○



安成哲三

総合地球環境学研究所所長

自然と社会の多様性の尊重は、地球の歴史が作り出した豊かな自然と人類が末永く共存するための心構え。

○ランキング○位」が流行るのは、このような社会である。SMA Pの歌、「世界に「ただの花」は「ナンバーワンよりオンリーワン」と唄って、このようなグローバルゼーションの動きに伴う画一的な価値観ではなく、多様な価値観を主張して、多くの人々から共感を得た。

丸い地球は極から熱帯までの気候の違いを作り出す

では、なぜ多様性が大切なのだろうか。それは人間社会の生存基盤である地球の自然の多様性から来ていると私は考える。丸い地球は極から熱帯までの気候の違いを作り、海陸の分布は、東西方向にも大きく異なる気候を作り出し、地軸の傾きは季節の変化を作っ

というんな物産・商品を扱う多様な小売店がそれなりに存続しているが、その背後には、多様な農林水産業とモノづくりがあることを忘れるべきではない。

グローバルゼーションによる自然と社会の多様性の喪失は、世界的に進行している。多様な樹種を持つ東南アジアの熱帯林は、訪れるたびに広大な油やし林やゴム林に変えられている。自然の画一化は、同時に地域の文化や風土の多様性の破壊をもたらしている。画一的な自然と社会は、気候変動や極端な気象現象などの、環境変動に対して脆弱であり、生じる被害も大きくなる。そのような環境変動そのものも、巨大化した人類の活動により顕著になってきていることを、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)などは指摘している。つまるところ、自然と社会の多様性を大切にすることは、やや大げさに言えば、46億年の地球の歴史が作り出した多様で豊かな自然と人類が、末永く共存するための必要な心構えではないだろうか。



自然の画一化は、同時に地域の文化や風土の多様性の破壊をもたらしている。(油やしプランテーション/マレーシア)

京都では、まだいろんな物産・商品を扱う小売店が存続している

しかし、最近では日本各地の都市を訪ねても、駅前風景の画一的なことにつかりする。どの駅でも東京に本拠をおく大手デパートやスーパーが駅前の一等地を占め、昔ながらの地元の商店街の多くはシャッターを閉じている。千年の都・京都では、幸いまだ、細々



●やすなり・てつぞう

1947年、山口県生まれ。京都大学理学部博士課程修了。筑波大学地球科学系教授や名古屋大学地球環境研究センター教授などを歴任後、2013年、総合地球環境学研究所所長に就任。専門は気候学・気象学。現在は、地球環境を包括的に調査分析する地球環境学の分野でも活動。秩父宮記念学術賞 水文・水資源学会国際賞など受賞多数。

戦後、日本人は物の豊かさと引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)